

令和元年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業 『美術研究』(調査・研究成果の公開) ^{(5)シ07}



『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。令和元年版は、B5版、533ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来90年近く日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論説、研究ノート、書評、展覧会評、研究資料・図版解説等を掲載している。本年度は434号、435号、436号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



無形文化遺産部出版関係事業 ^(△04)



『無形文化遺産研究報告』第16号

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術、無形文化遺産保護の国際的な動向等に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。第16号には報文7件、資料紹介1件の計8件を掲載。2022年3月刊行、182ページ。

第16回無形民俗文化財研究協議会報告書 『映像記録の力 —危機を乗り越えるために—』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第16回にあたる令和3年度は「映像記録の力—危機を乗り越えるために—」と題して開催し、報告・総合討議の内容などを報告書にまとめた。2022年3月刊行、93ページ。

